

〔課題名〕 農業構造改善地域連携システム支援コンサルタント活動報告書

〔報告書No.〕

〔研究年度〕 平成7年度

〔研究者〕 天間 征，畠山 尚史

1. 目 的

この事業は、社団法人全国農業構造改善協会の農業構造改善コンサルタント受託課題である。北海道上川管内剣淵町は平成3年9月に第3期剣淵町総合開発計画の一環として、「剣淵町農業振興計画」を策定した。この農業振興計画の実施が計画期間の半ばに達した平成7年に、この振興計画のこれまでの実績と効果とをレビューし、今後の5カ年間の残された期間において、所期の最終目標を達成するために必要と思われる諸施策に対して示唆を与えることが目的である。

本報告書では、剣淵町第3期農業振興計画の実施過程に生じつつある、計画の実現をさまたげる様々な「ゆがみ」を摘出し、その解消を図りつつ、初期の計画目標を実現するためには、計画後期においてどのような施策が必要であるか明らかにすることである。

2. 方 法

剣淵町、剣淵農協、農協生産部会の代表者のヒヤリングをもとに、「剣淵町農業振興計画」の目標達成に向けての問題点を整理して、方向性を踏まえた基本目標を策定した。農業振興計画の中間実績として、農業・農村の構造変革の進行を農家戸数の変化、面積階層分化の進展、農地の動向、農産物作付けの変化、農業粗生産額の動向、農家の経済内容、農業担い手状況、各行政区内の農家戸数の変化、農業インフラの構築状況をレビューの指標として考察した。その上で剣淵町農業構造改善のための諸対策を検討した。具体的な対策では農産物処理加工施設の充実、農業機械利用システムの確立、各種野菜の出荷流通体制の整備、コメの出荷・流通方式の多様化、桜岡湖周辺の総合的開発、農村の生活関連施設の充実、地力維持増進対策、地元高校の育成・強化の側面から展望を論じた。

3. 成 果

剣淵町農業は昭和44年から平成元年にかけての道営圃場整備事業などの実施と、当時の国・道からの厳しい水田減反割当ての影響を受け、深刻な停滞時代を経験した。しかし、第3期総合計画が始まった平成3年度を転換点として再びその活性を取り戻しつつあることが分かった。これは水稲・野菜作付増を中心とする粗生産額の上昇、農家経済における貯貸率、売上高・負債比率の改善などを通じて明らかになった。

この様な農業振興の改善の兆候を継続的な流れとしていくためには、4つの論点を列挙することでむすびとした。

第1は最初の予想に反して離農の進行が急速なことである。このことは将来における遊

休農地の発生、地価下落に伴う農家の担保力の低下、農村集落の過疎化、機械共同利用組合の弱体化などの発生に結びつく可能性がある。その対策としては、離農跡地が町内農業の「真の将来の担い手」に円滑に引き継がれること。その農地取得が残された農家の過剰負債と結びつかないためには、これまで以上に賃貸借による農地流動化の拡大を図っていく必要があるとした。

第2は新食糧法の実施、WTO農業交渉のウルグアイ・ラウンド協定によるコメ輸入義務の発生、加えて主食としてのコメ需要の減少傾向などから、剣淵町水田の全面的水稲作付け復元の困難性は一層高まると考えなければならない。現在生じつつある野菜作付面積の増加は今後も進めていかざるを得ない。その場合、それらの作物のほとんどが、多くの労働力と資本を必要とすることから、これらの生産に必要とされる新たな農機具・施設類の個人所有を避け、共同利用ないしは農協リース方式のもとでの導入をはかることが妥当な手段であるとした。同時にもっとも多くの労働力投下が短期間に集中する収穫・選別、出荷・調整作業について、農協主導型の共同集出荷システムを発展させることを具体的に策定した。農業機械利用の形態といい、農産物の集出荷作業のシステム化の形態といい、そのどちらも地元農協を中核とした全農業者一丸となった体制作りが望まれる。

第3は野菜産地化の形成につれて、それらの加工による高付加価値生産の需要が強まっていくことである。つまり、素材型生産から最終商品生産への道を模索することである。この実現により町内に雇用機会の増大を生み出し、ひいては町経済の活性化と結びつく可能性を指摘した。人参・トマトジュースをはじめ、いくつかの芽は既に出ており、それらの芽を大切に育て、新たな基幹産業として育てていくことが望まれるとした。

第4は「開かれた農村づくり」に関してである。観光資源の未開発な剣淵町において、「桜岡湖周辺開発」は画期的な意味を持つ。このような観光開発は、同時に全町民に対して新たな保養機会を町内に作り出すことにもなり、また来訪する都市民との交流機会の増大は、町民の感性を高めるとともに、新たな地元商品の開発と結びつく可能性があるとした。

4. キー・ワード

総合開発計画，農業・農村振興計画，農作業集出荷作業システム，農村活性化戦略，都市と農村を結ぶグリーンツーリズム